
夏の風物詩

ねいろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の風物詩

【Nコード】

N6958U

【作者名】

ねいろ

【あらすじ】

人見知りがひどいマナが椎名という女の子と友達になり、夏休みにアルバイトを始めたのでした。そこでマナが出会ったのは、シフォン。その女の子はなんと……。

大人しいマナが少し成長をみせる、小さなストーリー。

プロローグ

高校生になって二日目に、初めての席替えが行われたのでした。

「ねえねえ、あなたのことマナって呼んでいい？ 新稲マナって、あたしと名前かなりかぶっているからさあ」

背中を叩いてきて、そう話しかけてきたネコ目の輪郭が印象的な女の子。

人見知りが強い私には突然すぎる質問でした。

だって小柄な私は、自分で言うのもなんなのですが地味であまり目立たないタイプなんです。ついでに付け加えると声も小さいです。でも後ろ女の子は、戸惑っている私とはまったく正反対の性格みたい。すごく元気で明るい笑顔は人を引きつけるって感じがして、ちょっぴり羨ましく見えたのですから。

「よし決まり。よろしくね、マナ。あたしのことは椎名って呼んでね」

そして、ちょっと強引な人みたいです。

突然差し出された手を、私は思わず握り返してしまいましたので。そしてこの時から、ただ名前が似ているというすごく単純なことで、仔猫ちゃんみたいに人懐っこい椎名ちゃんと、地味な私はお友達になっちゃったのでした。

にこっと可愛い笑顔を見せられた時、戸惑いながらも、高校生活はなんだかちょっぴり楽しくなりそうなんて思ったことは彼女に秘密なんですけれど。

「マナって暗そうね」

え？

ショックだったことも秘密です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6958u/>

夏の風物詩

2011年10月9日10時08分発行